

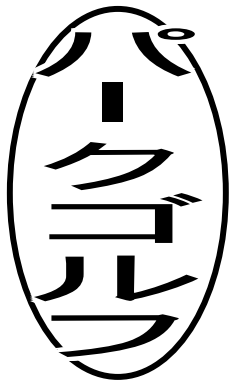
同志会新聞

発行者
(株)都城園芸花市場
生産者同志会
第11号

発行日
平成20年9月9日
編集者
原田 修作

第三回生産者大会

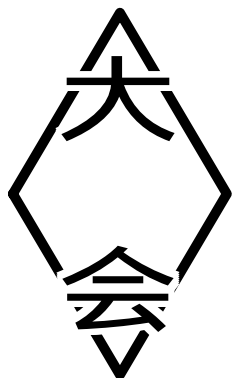
九月二十七日(土)
十時三十分
スタート



生産者同志会第一回パーク
ゴルフ大会を計画しまし
た。

生産者組合の当時、第一回
大会は市場グラウンドで開催
予定が、雨のため急遽市場
の場内で行い、チンプレー
が続出したのを記憶してお
ります。
二回大会は、今回開催しま
す山田町かかしの里パーク
ゴルフ場で行い好評、
チンプレーが続出したのを思
い出します。
今回第三回の生産者同志会
大会を契機にパークゴルフ
大会を開催計画いたしまし
た。
本格的なゴルフは全員で楽

しく和気藹々とはいきませ
んが、歩行可能な方であれ
ば誰でも楽しむことのでき
るスポーツであります。
ご家族おそろいで、山田町、
一堂ヶ丘公園 かかしの里
パークゴルフ場に御集合く
ださい。



グラウンドゴルフ終了後山田
町の温泉施設「ゆぼっぽ」
に移動いただき、平成十九
年度売上実績表彰、グラン
ドゴルフ大会表彰等を行
います。
温泉に浸かりながら、日ご
ろの疲れを取っていただ
き、同志会会員の懇親を深
めて戴けたらと思います。

大会 スケジュール

九月二十七日
土曜日

かかしの里
パーク
ゴルフ場

A M 十時

集合

十時半

スタート

A M 十二時

ゆぼっぽ

移動

十二時半

懇親会・
表彰式

参加費

一人 千円

高額売上 躍進表彰者

切花の部
最高売上
高額売上

平川 俊一郎
閨野 直広
長ヶ原 典雄
加世田 博文
瀬戸山 義廣
福留 重文
斎藤 誠
西道 忠光
小牧 範義
柿迫 健太
児玉 信幸

鉢物の部
最高売上

稲元 尚敬
山下 達雄

切花
躍進賞

村社 龍也

鉢物
躍進賞

西田 茂

ぶらーり洋子

平和

月日のたつのは早いものだ。
日々の雑事に追われ、振り返る余裕すらない・・・（それ程忙しくもないはずだが）

また、これが気になるのだ。何かをし忘れた感がある。年のせいかな・・・そう思われたことはないですか？

つきつめると平和なんですネ。私じゃないですよ！！日本が平和なんです。私達は平和な国、日本に住んでいるんです。

たしかに、物価の上昇、燃料の高騰に頭を悩ましてはいるが、現実、冷房された部屋でビールを飲み、テレビをながめながら不平を言っている。

ええ、戦争で犠牲になる子供達が大量にいるのに、平和な日本では犯罪もたえず起きている。許せないのは意味もなく・・・だ！

世代のせいかな、環境か、時代なのか、移りゆく時代の流れは昔に比べると確かに早く、先が見えない。



歴史

私共の市場も、平成十年に今の社屋となり、年商も、
十二年度 十三億三千万
十一年度 十三億三千万
十年度 十三億三千万
九年度 十三億三千万
八年度 十三億三千万
七年度 十三億三千万
六年度 十三億三千万
五年度 十三億三千万
四年度 十三億三千万
三年度 十三億三千万
二年度 十三億三千万
一年度 十三億三千万
十三年度 十三億八千万

十四年度 十四億一千万
十五年度 十三億五千万
十六年度 十三億七千万
十七年度 十三億七千万
十八年度 十四億五千万
十九年度 十四億六千万

社員の入れ替わりのはげしさに、皆さんからの注意をされ、それでも幹部社員は頑張って業績を伸ばしてきたが、今年二十年度は厳しい限りである。

先月八月二日、哲大前社長の十三回忌であったが、当時平成八年十一億七千万から、時代の波と、改革により、ここまでできたのだが、現実生産者の皆さんがきびしい時は、市場もきびしいものです。

販売店は、売れる見込みが無ければ、手を出さず、社員は市況を報告する電話に頭を下げつつ、生産者に「いません」を繰り返しているのです。



7月のアレンジ講習会の作品

ずんずん！

都城商工会議所では、十月十二日曜日、ばんち市朝市）計画し消費活性化で動き出す。

宮崎商工会、川南商工会、志布志、串間（海産物）の出店もあるようだ。

都城の賑わい軽トラック市。花の出店もお願いしたいと依頼があった。仲卸等に声を掛けています。

“何かせんといかんです”



香り

宮崎の脳外科の先生のお話ですが。

入院している人のお見舞いには、お花が良いと云う話です。

これには医学的理由があつて、一つは脳腺とか、リンパ球の働きをうながすからで、花の香りは化学物質で食べ物と一緒に！

つまり、鼻から入る食べ物。香りは脳に届いて、化学反応を起こし、免疫力を高めるそうです。

特にバラの香りは、脳の深いところにある、視床下部の血流をうながし、痛みを和らげるそうです。

ジャスミンの香りは、脳の血流を増やす効果があり「デートの前にはジャスミン」だそうです。

ローズマリーは記憶力アップ、受験生には効果大だそうです。

昔と今

東京のスズキフロリスト鈴木会長が農耕と園芸に「以前の花業界はのんびりしたもので、卸売市場の価格が高ければ、生産者が喜び、販売店が泣いた。逆に安ければ、販売店が笑い、生産者が困った。また、今年が高ければ来年は安く、今年が安ければ来年は高いという堂々めぐりで、帳尻が合ったものである。



現在はそんな暢気なことを言っている場合ではないが、苦しい時を経て新しいものが生まれる。また、困難の結果として、弱いものが滅び、強いものが残ることはある。身の回りを見ても、去っていくものが多いこの時期、しっかりとした体制を作りたい。と書かれています。経済の面からも、自然的な面からもこれからの日本の農業は大きな転機となることは確かであろう。

平成20年 盆

今年の盆商戦を振り返って見ます。

今年は盆八月十三日前の日曜日が十日、盆使用の花を買いのにはやや早く、カレシンドーの巡りとしてはあまりよろしくないパターンのものであった。

昨年は十二日が日曜日土曜、日曜と販売環境がそろった年であったため、昨年比較して今年の盆商戦は厳しい販売を予想して望んだところであった。

結果は、販売日が分散し単価に大きな差は出なかったものの入荷量が大きく減少し、販売店は仕入の控えもあつたものの販売チャンスが逃す店舗も見られた。その意味で、市場としての責任を痛感するところとなった。

七月からの高温の影響から、小売販売の不振は続き、販売店の盆仕入控えの要因ともなった。しかしながら、景気が悪くなると仏花は良く売れると昔から言われていることであるが、今年も小売店主の予想を越えて花の売行きは良かった。

やはり、不景気、不幸な出来事に遭遇すると先祖さまは大事にされるのです。

そのような盆取引の中で目を見張るものが、外国産の商品の入荷増であります。当社の盆期間の取扱総量は、前にも触れたように大きく減少しておりますが、輸入品の総量は増加しております。

中でもスプレー菊は国産の入荷も増加しておりますが、輸入品も大きく増加となりました。

小菊の生産量の減少から、小売店の販売アイテムがスプレー菊に変わったことが大きな要因と思われる。



頑張れ日本

オリンピックの応援ではありませんが、国内消費の花を外国に頼らなければならぬ、残念であります。

頑張れ日本！売れるときに、売れるものを作る技術は日本人のもつとも得意な分野ではないのかな？

今から来年盆の話をするのと、早すぎるかも知れませんが、小菊、スプレー菊の生産量を増やしましょう。

今後の課題

この盆の時期、毎年繰り返されるのが、菊を中心に起きる、開花遅延の問題です。

施設の中で栽培される事も一因と思われますが、白大、黄大、小菊等、高温が原因での開花遅延が毎年繰り返されております。

この問題解決なしでは、盆時期の安定供給はできないと思われれます。

ちなみに、今年、昨年が開花遅延を起こしたため早めの消灯を行ったところ、やはり早く咲いてしまいました。

どなたか、名案をお持ちの方いらしゃいませんか？

年末までの予想

市況予想

今年も残すところ百十二日今年も三分の二の日が過ぎております。

昨年の十一月位から、燃料の高騰、食料品の相次ぐ値上げにより、花の消費が鈍り始めすでに十ヶ月が過ぎました。

この傾向は、現在も回復の見込みはなく、先の見えないう状態となつてまいりました。

切花・鉢共に販売店での、販売量が減少していることは否めないところですが、販売単価も以前とそれ程の変化も無く販売されているにも関わらず、販売量が減少することは、一種の買い控えムードの中に花もあるということでしょう。

この買い控えムードは、燃料・食料品等の生活必需品の値上がり止まるまでは続くのではないかと考えられます。

業務需要はどのような動きをしているのか、ジューン

ブライドに始まる夏場のブライダル需要は本年非常に少なく、九月後半からの集中型での動きとなるようである。

葬儀需要は件数は変わらないものの、祭壇の規模(価格)は下押し気味となっております。

今月の敬老の日では総体的にはやはり鉢物中心の動きを予想しておりますが、アレンジギフト等も例年並の動きとなるものと予想しております。

秋彼岸は、盆と違い、国民的行事と云うより、仏教行事でありますので、天候に左右されることが大であり、好天の場合はお墓用の仏花に期待が持てます。なお、前段でも記しましたように、不景気の時の先祖頼みは仏教行事の彼岸でも例年よりは多いと思いたいところではあります。

十月、十一月は特別花の消費に結びつく行事も無いわけですが、ブライダル需要・葬儀業務需要が中心の動きとなるでしょう。

燃料・資材

十二月年末需要は、今年の盆需要期に加工用仏花が十分に手配できなかったこと等から、二十日過ぎから仏花中心に早い動きが予想されます。

これからの、台風、寒さの到来時期によつて相場自体は変化するものと思われるますが、慢性的な生産量の減少傾向は続くものと思われるます。

皆さんがもつと気になることと、一つには燃料のことでありと思ひます。

現在の、原油先物価格は一バレル百五ドルと以前に比べると下がり初めております。

論家の弁を借りると、十月から十二月に掛けて百ドルを割り込むのではとの予想もされる方もありますが、原油価格が商品取引バブルであるならば、上がったたり、下がったりを繰り返したのちにおおきく下落する可能性もあるとの論評もあります。

資材の値上げは、まだまだ続きそうと、十月からは段ボールの値上がりもありそうです。

当社も、皆さんの商品を少しでも単価が上がるように、小口での販売、セリ前での販売等努力しながらこの難局を乗り越えたいと思います。